

町では、千年以上育まれてきた国見の歴史・伝統・文化をこれから百年後に伝えていくため、これらを生かした「歴史まちづくり」の取り組みを進めています。町や地域が行うこの取り組みについて、毎月お伝えしていきます。

【歴史まちづくり推進室 ☎ 585-2967】
【あつかし歴史館 ☎ 585-4520】



“義経と国見”を紐解く

9月23日(日)に開催する第22回義経まつりに合わせ、今号では源義経と国見町の関わりについて紹介します。義経ゆかりの地に立ち寄り、800年の歴史に思いを馳せてみてはいかがでしょうか。



～平泉への道中、若松に腰を掛ける～

平安時代末の承安4年(1174年)、京都の鞍馬山にいた15歳の義経は、平家の勢力圏から逃れるため、奥州平泉の藤原秀衡を頼って東下りをしました。その際、若松の枝に腰を下ろし、ひと休みしたと伝えられているのが、阿津賀志山の麓にある「義経の腰掛松」です。江戸時代、見事な枝振りであったこの松は、奥州街道を行き来する人々がこの伝説とともに愛でた名木でした。



二代目松(1823~2014年)の一部を接木により育成した三代目の松(2010年~)

～兄頼朝のもとへ、硯石山にて閲兵～

治承4年(1180年)、23歳の義経は、兄頼朝が平家追討の兵を挙げたことを知り、武威坊弁慶、伊勢三郎義盛、佐藤継信・忠信とともに300余騎を引き連れ、鎌倉へ馳せ参じました。その際、硯石山で閲兵をし、弁慶がこの硯石の水で墨をすり、義経軍の兵の名前を記したと伝えられています。



～頼朝に追われ、再び平泉へ～

平家討伐後、朝廷から高い位を授かった義経は、頼朝の怒りを買って追われる身となりました。文治3年(1187年)、30歳の義経は再び秀衡のもとに身を寄せますが、秀衡の死後、頼朝に屈した泰衡(秀衡の子)に襲撃され、同5年衣川の館で自刃し、31歳で生涯に幕を閉じます。

この年、頼朝は阿津賀志山の戦いで藤原氏を破りますが、戦いの際、源宗山(藤田城跡)に本陣を置き、また鹿島神社にて戦勝を祈願したと伝えられています。



鹿島神社

歴史まちインフォメーション

まほろん×あつかし歴史館「くにみで縄文体験！」

日時 9月17日(日)午後1時30分から午後4時
集合 あつかし歴史館(旧大木戸小学校)
対象 小学4年生から6年生 定員30人
☆岩淵遺跡で縄文時代の暮らしを楽しく体験してみませんか？

第9回国見町歴史まちづくりシンポジウム
「文化遺産を活かした地域の活性化に向けて(仮)」

日時 10月14日(日)午後1時から午後5時
会場 観月台文化センター・ホール
☆建築史・民俗などの視点から国見を見つめ、各地に残る文化遺産がどのような結びつき、ストーリーを持つのか考えます。

七夕

8月11日にあつかし歴史館にて開催しました『七夕』遊びと学びのミュージアムには、約250人の来場があり、地域のみなさんと旧暦の「七夕」にまつわる体験学習、遊びを行いました。

あつかし歴史館では、今後も歴史や季節にまつわるイベントを開催していきますので、ぜひご来館ください。



▲竹キャンドルで幻想的な雰囲気

子どもたちが流しそうめん



出場する選手のみなさん

出場選手	(敬称略)	位置	氏名
位置	氏名	内野手	古内 智樹
代表	佐久間裕明	内野手	近野 祐哉
監督	古山 和也	内野手	佐藤 哲也
主将	松浦 昭太	内野手	斎藤 優
投手	斎藤 奨	内野手	黒田 雄大
投手	太田 達則	内野手	菊地 拓真
投手	千葉 春樹	内野手	鈴木 俊大
投手	服部 琢弥	内野手	川名 敦
捕手	佐藤 勇輝	内野手	安藤 雅規
捕手	滝澤 瑞希	外野手	戸田 良樹
捕手	佐藤 幸教	外野手	星 明日斗
内野手	佐藤 健郎	外野手	村上 佑貴

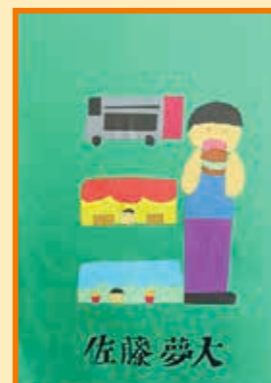
第11回市町村対抗福島県軟式野球大会が9月9日に開幕します。今大会には県内59市町村が出場し、熱戦を繰り広げます。大会に先立ち、国見町チームは8月27日、観月台文化センターで結団式を行いました。結団式では、佐久間裕明代表

が「初戦突破とその先の勝利を目指して、チーム一丸となって頑張ります」と意気込みを語り、チームの健闘を誓いました。初戦は9月17日に、県営あづま球場で平田村と対戦します。みんなで国見町チームを応援しましょう！

オール国見で勝利を誓う 市町村対抗軟式野球大会国見町チーム結団式



清水 万優子



佐藤 夢大



赤坂 心



源田 彩心

県北中学校

小さな天才たち